

論文審査の要旨(甲)

| | |
|--|---|
| 申請者領域・分野 氏名 | 感覚統合科学領域 耳鼻咽喉科学教育研究分野 後藤 真一 |
| 指導教授氏名 | 松原 篤 |
| 論文審査担当者 | 主 査 横山 良仁 副 査 東海林 幹夫 副 査 小林 恒 |
| <p>(論文題目)</p> <p>Relationship between cognitive function and balance in a community-dwelling population in Japan. (日本地域住民における認知機能とバランスとの関連性)</p> | |
| <p>(論文審査の要旨)</p> <p>治療法が確立されていない認知症は予防の観点から認知機能低下の評価指標を明らかにすることは重要であるという研究背景から、まだ報告のない平衡機能の低下と認知機能のレベルの関連を調査し、平衡機能の評価することが認知機能低下の予兆として有用かどうか検討している。岩木健康増進プロジェクト健診に参加した 60 歳以上のうち条件に見合った 218 人(男性 79 名、女性 139 名)を本研究の対象とした。3 種の平衡機能検査:開眼片足立ちテスト(OLST)、Functional reach test(FRT)、重心動揺検査を実施した。認知機能検査としては Mini mental state examination(MMSE)を用いた。解析方法として、対象を男女に分け、開眼総軌跡長、閉眼総軌跡長、OLST、FRT と MMSE との相関関係を共分散分析で評価している。また、重心動揺検査と MMSE の相関関係について検討するため、開眼総軌跡長、閉眼総軌跡長と MMSE の関係を男女別に重回帰分析で評価している。本研究では、次のような結果を得ている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 男性と比べ女性の方が有意に MMSE の得点が高い結果となった。 2) 平衡機能検査において、開眼総軌跡長、閉眼総軌跡長は女性の方が男性と比べ有意に優れていた。 3) 3 種の平衡機能検査のうち重心動揺検査のみ、男性において開眼・閉眼いずれの総軌跡長も MMSE との間に有意な負の相関関係がみられた。 4) 重回帰分析でも総軌跡長が男性において開眼・閉眼いずれも MMSE との間に有意な負の相関関係を示した。 <p>早期の認知機能低下をとらえる検査として、平衡機能検査の中の特に重心動揺検査が有用である可能性が示唆され、認知機能と平衡機能の関連には男女差があることが推測される研究結果であった。特に男性において重心動揺検査は認知機能低下の初期を反映するスクリーニング検査になり得る可能性を示唆した研究であり、学位授与に値する。</p> | |
| 公表雑誌等名 | Acta Oto laryngologica. 2017, doi: 10.1080/00016489.2017.1408142. |